

原著論文

## 村上春樹の短編小説を用いた敬語の教材開発

—中国の大学における日本語学習者を対象として—

林 春<sup>†</sup>

### Development of teaching materials of honorific using Haruki Murakami's short story

—For Japanese learner at the university in China—

Chun LIN

#### Abstract

The previous research works have shown that it is usually difficult in Japanese honorific learning for Japanese-language teachers to supervise and for students to master. In order to solve the problem of Japanese honorific education, this paper propose to use honorific expressions in Haruki Murakami's short story, which are frequently appeared in a lot of conversation scenes of characters relationship, and explore the properties and the reasons of the used honorific and the treatment expression of the characters in the conversation scenes. Then according to the analysis results of the used honorific expression properties, we propose to use the short story 『Where is the place this and that thing seems to be found』to analyze what can be mastered by honorific learning for middle- or high-level Japanese learner at the university in China, and based on these, we make learning and supervising plan for honorific education.

**Key words:** Honorific learning, teaching materials, Haruki Murakami's short story, Japanese learner in China

#### 1 研究の目的と方法

多くの中国の大学における中上級日本語学習者（以下はCLと略す）は、研修先や職場において相手や場面に応じて適切な言葉づかいを使用することが困難であるとよく指摘している。

また、日本語教師にとっても敬語を含めた待

遇表現は難しい指導項目であると捉えていることは先行研究でたびたび報告されている。

CLが敬語と敬語の使用に対して当惑している原因としては様々な要素が絡んでいると思われるが、CLの周りにはほとんど日本語話者がいないので、実際に日本語（特に敬語）を使う機会が少ない。だから、彼らの敬語の習得は教科書に頼らざるを得ないので、教科書の役割は特に大きい。

しかし、中国の大学における日本語教育現場（以下は教育現場と略す）で現在使われている

---

<sup>†</sup>教科教育専攻 国語教育専修  
指導教員：大田勝司

教科書はさまざまな問題が存在していることは筆者の調査で分かってきた。だから、教育現場では指導者が既存の教科書だけに頼ることは不十分である。そのため、今後教育現場においては、指導者と学習者にとってふさわしい敬語教育の教材を開発する必要がある。

また、今まで日本国内における教育現場では、教科書以外にさまざまな文字素材と音声素材を利用し、敬語の教育を行っている。例えば、半田（1999）は二つの近代の長編恋愛小説を教材として留学生に敬語教育を試み、一定の効果が得られた。また、『敬語表現教育の方法』という本の中では、ドラマ・映画・討論会などの録画から言語的な待遇表現（敬語も含めて）が使用されている一場面を見せて待遇表現を指導する方法があると書かれている。しかし、近代文学作品の中で使われている言葉は現代の人々が使用している言葉と比べると比較的古いいため、その作品は学習者にとって、なかなか読みづらいものである。一方、ドラマ・映画などの音声教材における会話表現は現実生活で人々が使っている話し言葉と近くて、敬語の教材として使われやすいと考えられるが、視聴覚教室を持っていない教育現場では音声教材を使うことは不可能である。

このように、教育現場では、指導者が上記のような敬語の教材を選ぶことは難しいと考えられる。よって今後、指導者が教育現場と学習者の状況に応じて、もっとふさわしい教材を選ばなければならない。

そこで、本稿は、敬語教育の問題点の解決に向けて、人間関係や場面に応じた敬語表現がよく使われている村上春樹の短編小説を選び、その作中における敬語表現の特徴を分析した後、その作品を敬語の授業に取り入れ、敬語の教材として使うことが本研究の目的となる。

## 2 敬語教育において村上春樹の短編小説の利用

前述したように、教育現場では指導者が既存の教科書だけに頼ることは不十分である。さらに、指導者が近代文学や音声教材などの敬語の教材を選ぶことは難しいと考えられる。そこで、

今回はこうした敬語教育の課題の解決に向けて、中上級のCLを対象に村上春樹の短編小説を用いた敬語の教材を開発することを試みた。

### 2.1 村上春樹の作品を教材化にする理由

村上春樹の作品を敬語の教材化するには、次のような3つ理由がある。1つ目は、彼は日本国内だけでなく、海外でも人気が高く、アメリカ・中国・韓国でも大きな影響力をもつ作家の一人だと言われているということである。2つ目は、彼の数多くの作品はすでに中国で発行され、中国語にも訳され、指導者とCLが簡単に手に入れることが可能だからである。3つ目は、中国において村上春樹の読者がたくさん存在しており、多くのCLも彼と彼の作品に対して高い関心・興味を持っている。指導者がこうした学習者の関心・興味に応じて敬語の学習を展開すれば、学習効果がさらに高められると考えられる。また、彼の短編小説の中では談話表現が多く、当然、その中で敬語表現も目につくということである。

このように、彼の作品における豊富な敬語・待遇表現を通じて、学習者が現在日本で実生活に使われている敬語を実際に体験した上で、敬語の理解と表現能力を養うことができるのではないかと考え、村上春樹の短編小説を教材化の対象にしたのである。

### 2.2 『どこであれそれが見つかりそうな場所で』を選んだ理由

『どこであれそれが見つかりそうな場所で』という作品は『東京奇譚集』の3番目の短編小説である。この小説を教材化にするのは、次のような3つの理由がある。1つ目は、この作品は2005年に出版された作品であり、比較的現在の言語活動に近い敬語表現の形式が反映されているということである。2つ目は、この作品の会話場面において多くの敬語表現がみられるうえに、文章の紙数は短く（ページ数は36ページ）、作品の内容と言葉が分かりやすいということである。中上級学習者の読解力に合わせて、学習者が限られる授業時間の中で効果的に文章を読み取れ、敬語の使用状況を体験することができる。3つ目は、この作品は彼のほかの

作品と比べると作者が意図的に場面や話題人物、話し手と聞き手の年齢、職業、立場、個性などに応じて、多彩な敬語表現をしているということである。学習者がこの作品の談話表現を通して、多様な人間関係や場面に応じて敬語使用の状況を体験することが可能と考えられる。

### 2.3 村上春樹の作品における敬語表現

作中では、作者が意図的に場面や話題人物、話し手と聞き手の年齢、職業、立場、個性などによって、たくさんの適切な敬語表現をしている。5つの談話場面においては、「私」と小さな女の子のコミュニケーションを除いて、その他の4つ場面の談話表現はすべての場面や人間関係によって現在日本で実生活に使われている敬語使用をしている。

この作品は敬語学習の素材として使う前に、指導者が学習者に敬語の学習を支援するため、この作品のどの部分が敬語の学習に使えるか、作中の会話表現における敬語使用はどのような特徴を持っているのかを事前に理解することが必要である。

ここでは、場面や話題や人間関係のほかに、登場人物の心理的状況の変化によって、敬語表現がどう使い分けられるかを分析してみる。なお、以下の分析では、『どこであれそれが見つかりそうな場所で』という作品名は省略し、作品の頁数、行数だけを示す。

また、五つ場面の中の場面一と場面五の会話場面を取り上げ、その会話場面における敬語使用の要因を分析してみる。

#### 2.3.1 場面1（「私」と女の談話表現）の敬語使用

場面1はある日、夫が行方不明になった女が、主人公である「私」の事務室に夫を探してほしいと頼みに来た、その女と「私」の初対面のコミュニケーションである。話題人物は女の夫と義父・義母である。

##### (1) 上下関係より内・外関係を優先して敬語の使用

ここでは、まず、二人の談話の一部を取り上げ、社会的ファクターを応用して分析してみる。

- ① 「私」：失礼ですがおいくつになられますか？ (85-6)

- ② 女：私の年齢をお尋ねになっていらっしゃるのですか？ (85-7)

- ③ 「私」：「そうです」と私は言った。(85-8)

- ④ 女：「もちろんお答えになりたくなければ、お答えにならなくて結構です」。

(85-8, 9)

二人の敬語表現については、「私」は女より年上であるし、女の夫を探すから、彼女に恩恵を与える立場に立っている。本来、「年齢の上下関係」と「立場の関係（恩恵授受など）」という社会的ファクターで言葉づかいを選ぶと、女に敬語を使う必要がない。しかし、この会話場面では、「私」が女と初対面だから、「年齢の上下関係」と「立場の関係（恩恵授受など）」より「内と外の関係」の方を優先して言葉づかいを考え、女に丁寧な敬語を使っている。一方、女は「私」より年下であり初対面である。また、夫を探してほしいと頼みに来て、「私」から恩恵を受ける側に属す。だから、女は「年齢の上下関係」と「立場の関係（恩恵授受など）」、「内と外の関係」から考えると、「私」に敬語を使うべきである。

##### (2) 話題人物への敬語使用

場面1の談話表現においては、話題の人物について尊敬語と謙譲語使用の談話表現がしばしば現われている。ここで作中の一例を取り上げ、詳しく説明してみたい。

まず、「私」と女は女の義父の仕事について、次のような談話を交えた。

- ① 「私」：「お父様は何をしておられるのですか？お仕事は」 (86-3)

- ② 女：「僧侶でした」 (86-4)

- ③ 「私」：「僧侶といますと……、仏教のお坊さんということですか？」 (86-5)

- ④ 女：「そうです。仏教の僧侶です。浄土宗。豊島区でお寺の住職をしていました」

(86-6)

ここで注目したいのは女の義父の仕事について「私」と女のことばづかいである。「私」が女の義父と女に両方を配慮して改まった言い方をする。例えば、①番の「お父様は何をしてお

られるのですか？お仕事は」という質問は、話し手（「私」と聞き手（女）、その場にはいない話題人物（第三人称）の3人の存在を要する文である。「私」から女に対して、丁寧語（です）を、女の義父について、尊敬語（お父様、おられる、お仕事）を使っている。女は「私」に丁寧語（です）を使っていると同時に、義父（女の身内の人）の職業について、義父へは謙譲語（おる）が用いられ、「私」に丁寧語（ました）を用いている。

### 2.3.2 場面2（「私」と若い男）の談話表現

この場面で登場する人物は「私」と30過ぎの小柄な男である。談話はマンションの階段で行われており、話題の人物は女の夫である。

#### (1) 話し手の領域に属さない話題への敬語使用

次に、「私」と若い男の談話表現を分析してみる。二人の談話表現の一部は以下の通りである。

- ① 「私」：こんにちは、ちょっとよろしいでしょうか？ (104-7)
- ② 男：いいですよ (104-8)
- ③ 「私」：いつもこの階段を走って上り下りしておられるのでしょうか？ (104-10)
- ④ 男：走って上ります。32階まで。しかし下りるのはエレベーターを使います。走って階段を下りるのは危険なんです。(104-11, 12)
- ⑤ 「私」：毎日やっておられるのですか？ (104-13)
- ⑥ 男：いいえ、勤めがありますので、なかなかそう時間がとれません。週末にまとめて何往復かします。平日でも仕事が速く引けたときには走りますが。(104-14, 15)
- ⑦ 「私」：このマンションに住んでおられるのですか？ (104-16)
- ⑧ 男：もちろん、17階に住んでいます (104-17)
- ⑨ 「私」：26階に住んでおられる胡桃沢さんのことを、ひょっとしてご存知でいらっしゃいますでしょうか？ (104-18, 19)
- ⑩ 男：クルミザワさん？ (104-20)
- ⑪ 「私」：アルマーニの金属縁の眼鏡をかけ

て、証券トレーダーをやっていて、いつも階段を使って上り下りしている人です。身長は173センチ。年齢は40歳です。

(104-21, 22)

- ⑫ 男：ああ、あの人ね。知ってますよ。一度話をしたことがあります。走っているとときどきすれ違います。ソファに座っておられることもあります。エレベーターがいやで、階段しか使わない人ですよ？ (104-23, 24)

上記場面2の②、④、⑥、⑧、⑩、⑫番の談話表現のように、若い男は全体的に聞き手の「私」に対する謙譲語と尊敬語を使わずに丁寧語しか使っていない。一方、その場にはいない話題人物の胡桃沢（彼より年上）に対しても、上記⑫番の談話表現のように“座っておられる”のような敬度がやや低い尊敬語しか使っていない。このように、若い男は面前の聞き手への配慮として、聞き手にできるだけ多く丁寧語を使う傾向がある。丁寧語は聞き手への配慮を表すのだが、話題人物にあまり配慮をしない表現である。現代社会の中では、敬語の使用は主に聞き手を配慮して丁寧語を使う傾向がある。この場面の談話表現も敬語の相対敬語化という現代敬語使用の特徴を現わしている。

### 2.3.3 場面3（「私」と老人）の談話表現

談話場面3の登場人物は「私」と一人の老人である。談話場所はマンションの階段で行われており、話題の人物は女の夫である。

#### (1) 話し手の品格を保持する動機（老人の場合）

ここでは、二人の談話の一部を取り上げて分析してみる。

- ① 老人：「こんにちは」と彼は言った。(106-13)
- ② 「私」：「こんにちは」と「私」は言った。(106-14)
- ③ 老人：ここで煙草を吸ってもよろしいですか？ (106-15)
- ④ 「私」：「どうぞ、どうぞ、ご遠慮なく」と「私」は答えた。(107-1)
- ⑤ 老人：「26階に住んでおります」と彼は煙をゆっくりと吐き出してから言った。

「息子夫婦と同居しておるんですが、煙草を吸うと部屋が臭くなると言われまして、それで煙草が吸いたくなると、ここに來ます。あなたは煙草は吸われますか？」

(107-4, 5, 6)

- ⑥ 老人：私も煙草をやめてもいいんですよ。どうせ、一日に数本しか吸いませんから、やめようと思えばいつでも簡単にやめられます」と老人は言った。「ただ、煙草を買いに外に出るとか、うちを出てわざわざここまで来て一服するとか、そういう雑事が発生するおかげで、けっこう滑らかに日々の時間が過ぎていきます。身体も動かしますし、余計なことも考えずにすみますし。(107-8, 9, 10, 11)
- ⑦ 「私」：「いわば健康のために喫煙を続けられているわけですね」と「私」は言った。(107-12)
- ⑧ 老人：「実にそのとおりです」と老人は真顔で言った。(107-13)
- ⑨ 「私」：26階にお住まいだとおっしゃいましたね？(107-14)
- ⑩ 老人：そうです(107-15)
- ⑪ 「私」：それでは2609にお住まいの胡桃沢さんのことをご存知でしょうか？(107-16)
- ⑫ 老人：ええ、知っておりますよ。眼鏡をかけた方ですね。ソロモン・ブラザーズにお勤めになっていたかな？(10801, 2)
- ⑬ 「私」：メリルリンチ(108-3)
- ⑭ 老人：そうです。メリルリンチ。何度かここで話をしたことがあります。あの方もときどきこのベンチにお座りになっていました。(108-4, 5)

この談話場面では、「私」は始終老人に対して「上下関係」「親疎関係」を意識して、初対面の年上の老人に対する敬語を使っている。一方、老人は「私」と「話題人物」に対しても尊敬語と丁寧語を使っている。老人は「私」より年上だから、上下関係からみれば、「私」に敬語を使わなくてもいいが、この場面では、老人は「私」に対して「上下関係」より「親疎関係」の方を優先して、年下の「私」に同等的な

敬語を使っている。

また、老人の職業から考えて、「私」に敬語を使うほかの理由を分析してみたい。老人がこの会話場面において、「私」に敬語を使用したもうひとつの理由は、老人の元の職業が小学校の校長先生だから、自分の品格、教養を「私」に見せたくて、「私」に丁寧な言葉遣いをしていると考えられる。

## (2) 話者の領域に属さない話題人物に対する敬語使用

⑪番から⑭番までの談話表現を分析してみると、老人は聞き手の「私」に対する敬語を使いながら、話題人物の胡桃沢(老人より年下)に対してもよく敬語表現をしている。話題人物の胡桃沢は老人と「私」の領域に属さない話題人物であり、老人より年下の人物である。しかし、老人は話題人物の胡桃沢について、「私」と胡桃沢の両方に配慮して、尊敬語表現をしている。同じ場所(マンションの階段)で、同じの話題人物(胡桃沢)の同じことについて、同じの聞き手(「私」)に対して、場面2で登場した若い男と老人の敬語表現はちょっと違う。例えば、若い男が胡桃沢のことについて、次のように「私」に答えた。

あの人ね。知ってますよ。一度話をしたことがあります。走っているときどきすれ違います。ソファに座っておられることもあります。エレベーターがいやで、階段しか使わない人ですよ。(104-23, 24)

のように、若い男が自分より年上で、自分の領域に属さない話題人物の胡桃沢のことについて、「あの人」と呼んでいるし、「座っておられる」のような敬度がやや低い敬語を使っている。一方、老人が胡桃沢の同じことについて、次のように「私」に答えた。

そうです。メリルリンチ。何度かここで話をしたことがあります。あの方もときどきこのベンチにお座りになっていました。(108-4, 5)

のように、老人は同じ聞き手(「私」)に対して、自分より年下、自分の領域に属さない話題人物

に対する敬度が高い尊敬語を用いる。

本来、菊地（1997）が指摘したように敬語使用の「上下関係」「親疎関係」から分析すると、若い男は話題人物に対して、老人より敬度の高い敬語を使うべきなのに、実際彼が使っている敬語の敬度は老人より低い。なぜならば、「老人」と「若い男」の話題人物への敬語の使用の違いは人柄・言語生活歴などの背景的なファクターに影響されていると考えられる。

(3) 「……(ら)れる」動詞受身形の敬語と「お/ご～になる」という尊敬語の使用

この場面では、老人は話題人物「胡桃沢」に対して「お/ご～になる」の敬語を使っているが、「私」に「～(ら)れる」という動詞受身形の敬語も使われている。例えば、上記の談話表現の⑤番の談話に注目したい。老人は「私」に次のように聞いた。

- ⑤ 老人：「あなたはたばこを吸われますか？」 (107-6)

ここでは、老人は「私」に対して「……(ら)れる」という尊敬語を使っている。しかし、「老人」は「胡桃沢」について以下のように⑫番と⑭番を挙げてみると、

- ⑫ 老人：「ええ、知っておりますよ。眼鏡をかけた方ですね。ソロモン・ブラザーズにお勤めになっていたかな？」 (108-1, 2)

- ⑭ 老人：「そうです。メリルリンチ。何度かここでお話をしたことがあります。あの方もときどきこのベンチにお座りになっていました。」 (108-4, 4)

ここでは、老人は話題人物の「胡桃沢」について、「お勤めになっていたかな？」と「お座りになっていました」を使っている。言わば、「お/ご～になる」という尊敬語を使っている。

なぜ老人は「私」に対して、「……(ら)れる」という動詞受身形の尊敬語を使っているが、話題人物の「胡桃沢」に対して、「お/ご～になる」という尊敬語を使っているのかを考えてみたい。1つ目の理由は、老人の元の職業は校長

先生のようなだから、自分の品格・教養を保持したいという気持ちから「私」に対して敬語を使っている。しかし、「老人」が「私」より年上だから、上下関係からすれば、別に「私」に対して敬度が高い「お/ご～なる」という尊敬語を使う必要はなく、敬度がやや低い「……(ら)れる」という尊敬語を使うことにしている。2つ目の理由は二人の談話場面は改まった場面ではなくて、マンションの階段で行っているので、尊敬の意味が軽い言い方「……られる」という尊敬語を使ってもよいと考えられる。

一方、老人は話題人物の「胡桃沢」と近所関係だが、軽い世間話しかしておらず、二人の関係は親しくない。老人は「胡桃沢」との心理距離は目の前の聞き手「私」より遠いと感じられるので、「私」より敬度が高い言い方「お/ご～になる」という尊敬語を使用している。

2.3.4 場面4（「私」と小さな女の子）の談話表現

談話場面4の登場人物は「私」と小さな女の子である。談話場所はマンションの階段で行われ、話題の人物は小さな女の子の母である。ここでは、二人の談話の一部を取り上げてみると、

- ① 女の子：おじさん、子供はいる？ (112-7)  
 ② 「私」：子供はいない (112-8)  
 ③ 女の子：子供のいない男の人とは口をきいちゃいけないって、うちのお母さんが言ってた。そういう人はカクリツ的にヘンテコな人が多いんだって (112-9, 10)  
 ④ 「私」：そうとも限らないけど、でもたしかに知らない男の人には注意をした方がいいね。お母さんの言うとおりで (112-11, 12)  
 ⑤ 女の子：でも、おじさんはたぶん変な人じゃないよね (112-13)  
 ⑥ 「私」：違うと思う (112-14)

のように、この談話場面では、二人が始終普通体の言葉で談話を交えている。女の子は知らない初対面の人を意識して警戒心を払っていることは上記③の言葉から知ることができる。本来、「上下関係」と「親疎関係」によると、女の子は自分より年上の初対面の人に対して、敬語を

使うべきである。しかし、彼女がまだ小一の児童だから、敬語を使う意識と能力はまだ身につけられていないので、「私」に普通体の言葉しか使えない。

一方、上記④番の会話のように、「私」は小さな女の子と初対面なので、彼女よりかなり年上だから、彼女と話題人物の彼女の母に対して敬語を使う必要がない。

また、敬語は相手と距離を置く言葉として働いている機能も持っているから、この場面の談話表現には、「私」が意識的に小さな女の子のような普通な話し方に合わせて話している理由は「私」が小さな女の子との心理的な距離が近づくからであると考えられる。

### 2.3.5 場面5（「私」と女）2回目の談話表現

場面5の登場人物は「私」と女である。この場面は、電話でのやりとりである。話題人物は「女の夫」である。この談話場面では、女の終始一貫して丁寧な敬語表現とは違い、「私」の言葉づかいが非常に特徴的である。「私」は話の内容・心情変化によって、女に対する態度・言葉づかいが大きく変わる。「私」から女に対する談話では、菊地（1999）が指摘したように、人物に対する心情の変化、「恩恵」の捉え方による待遇表現の使い分けが多数存在する。ここでは、二人の談話のすべてを取り上げて分析してみる。

- ① 女：夫が見つかりました (116-5)
- ② 「私」：見つかった？ (116-6)
- ③ 女：ええ、昨日の昼ごろに、警察から電話がありました。(以下省略) (116-7~10)
- ④ 「私」：どうしてまた仙台に？ (116-11)
- ⑤ 女：それは本人にもわかりません。(以下省略) (116-12~14)
- ⑥ 「私」：どんな服装でした (116-15)
- ⑦ 女：家を出たときと同じ服装です。(以下省略) (117-1~6)
- ⑧ 「私」：それはよかった (117-7)
- ⑨ 女：これまで調査をしていただいたことには、深く感謝しております。しかしそのような次第で、これ以上ご苦勞をおかけする必要もなくなったようです。(117-8, 9)

- ⑩ 「私」：どうやらそのようですね。(117-10)
- ⑪ 女：何から何までとりとめのないできごとで、(以下省略) (117-11, 12)
- ⑫ 「私」：もちろん、そのとおりです、それが何よりです (117-13)
- ⑬ 女：それで、お礼のことなのですが、やはり受け取ってはいただけないのでしょうか？ (117-14)
- ⑭ 「私」：最初にお目にかかったときにも申しあげましたように、謝礼に類するものはいっさいいただきません。(以下省略) (117-15, 16)
- ⑮ 女：それではごきげんよう。(118-3)

のように、この談話場面は「私」と女の二回目の談話で、女は一回目と変わらず「私」に丁寧に敬語を使っているが、「私」は女に談話の前半部分は敬語を使っていないのに対して、途中から最後まではまた女に対して敬語を使うようになった。例えば、「私」は女から女の夫が見つかったという話を聞いた後、びっくりして信じられずに、②番のように彼女に「見つかった？」と聞き返した。

ここでは、「私」は今まで女に対してずっと丁寧に敬語を使っていたが、なぜ突然常体の言葉に変わったのかを分析してみたい。菊地（1997）は談話の参加者の心情変化による待遇意図という観点から心理的ファクターの変化に伴う待遇表現の使い分けについて、話し手が急に敬語を使わなくなるのは当時の心理状態と深く関わっていると述べている。この解釈に従って、「私」の女に対する言葉づかいを考察してみる。まず、「私」は女から女の夫が見つかったという話を聞き、あまりに興奮し、②番のように女に対して待遇意図が働く以前の状態に戻って、心の中の言葉（常体の言葉）をそのまま口にしてしまった。続いて、「私」が女に女の夫についての話を聞いた後、興奮した気持ちがだんだんと落ち着き、⑥番のように常体の言葉から敬体の言葉に変わった。また、女の夫が明日には戻ることができるという話を聞いた後、⑧番のようにまた常体の言葉に変わった。最後に、「私」は女から謝礼のことについての話を

聞いた後、いきなり態度が冷たくなり、⑭番のように今までで一番改まった敬語を使い女に謝礼のことを断った。ここで使われた敬語の機能は相手に敬意を表すというより相手を敬遠することであると考えられる。

#### 2.4 作品全体の敬語使用の特徴と要因

この作品における敬語の使用状況を考察した結果、作中における敬語使用の特徴と使用要因を次のようにまとめてみる。

1. 敬語使用の条件としては、上下関係より親疎関係を優先するようになる。
2. 話題人物に対する敬語表現は話し手と話題人物の人間関係によって違ってくる。
3. 若い世代の言葉使いは話題人物より聞き手を多めに配慮し、聞き手にできるだけ多く丁寧語を使う傾向がある。
4. 年上の方は「親疎関係」を配慮するだけでなく、自身の品格と円滑な人間関係を保持するために、年下の聞き手に敬語を使うことだと考えられる。
5. 話し手が自分自身の心理状態および心理変化に応じて聞き手に対する敬語の使用と不使用が交互に変る場合がある。

### 3 村上春樹の短編小説を用いた敬語教材の作成

ここまで村上春樹の『どこであれそれが見つかりそうな場所で』という短編小説における会話表現の中で使われている敬語表現の特徴を分析した。そして、以下は学習者がこの作品で敬語についてどのようなことが学習できるのかに注目・分析した上で、学習指導計画を立ててみたい。

#### 3.1 学習上の意味づけとねらい

敬語の使い分けへの理解を深め、より適切でより豊かな敬語を使用し、ことばをコミュニケーションの中で扱う力をつけるために、人間関係やコミュニケーションの場が体験できる文学作品を選んで敬語をさがし、ロールプレイ・寸劇などの学習活動を取り入れ、敬語の学習活動を展開する必要がある。

だから、今回は場面と人間関係によく応じた敬語・待遇表現が使われている『どこであれそれが見つかりそうな場所』という作品を選び、教材として敬語の学習活動に取り込みたい。この教材を通して、敬語の使い分けを体験した上で、敬語の使い分けへの理解を深め、より適切な敬語で表現できる学習を望んでいる。

#### 3.2 教材としての『どこであれそれが見つかりそうな場所で』

学習者が『どこであれそれが見つかりそうな場所で』という作品で、敬語についてどのようなことが学習できるかに注目して二つの例を取り上げた上で、学習指導計画を立ててみたい。

#### 3.3 各談話場面の敬語使用の要因と文体

学習者は敬語表現の使い分けに関する複数のファクターに直面する時、どちらの関係を優先すべきかについてよく迷う。ちょうどこの作品の談話場面の中では、社会的ファクターと心理的ファクターにかかわる敬語表現がよく使われているので、学習者にとってこうした待遇表現の使い分けを理解するいい教材だといえる。

この作品における各談話場面の敬語使用条件と文体について、具体的な分析は表1の通りである。

#### 3.4 三種類の尊敬語の違い

学習者が尊敬語の種類は知っているが、各種類の尊敬語の違いについてあまり気がついていない。そのため、指導者がこの作品の会話表現における3種類の尊敬語を読みながら、「…(ら)れる)」と「お/ご～なる」、特定形敬語という尊敬語の使い方の違いについて、学習者に尊敬語の使い分けへの理解を深めさせるべきである。例えば、老人と若い男は「私」に話題人物の胡桃沢について次のように述べた。

老人：そうです。メリルランチ。何度かここでお話をしたことがあります。あの方もときどきこのベンチにお座りになっていました。(108-4,5)

若い男：ああ、あの5人ね。知ってますよ。一度話をしたことがあります。

表1 各談話場面の敬語使用の要因と文体

場面	登場人物	敬語使用の要因	文体
1	「私」と女	「私」は女に対して(ソト+下) 「女」は「私」に対して(ソト+上)	敬体
2	「私」と小柄な男	「私」は男に対して(ソト+下) 「男」は「私」に対して(ソト+上)	敬体
3	「私」と老人	「私」は老人に対して(ソト+上) 「老人」は「私」に対して(ソト+下)	敬体
5	「私」と女	「私」は女に対して(ソト+下), また, 私の心理状態の変化による 「女」は「私」に対して(ソト+上)	敬体・常体混じり

走っているとときどきすれ違います。ソファーに座っておられることがありますよ。(以下省略)

(104-23, 24)

ここでは、老人は胡桃沢について「お勤めになっていたかな?」と「お座りになっていました」のような「お/ご~なる」という敬語を使っている。一方、若い男は胡桃沢について「座っておられる」のような「…(ら)れる)」という敬語を使っている。

また、「私」は老人に対して特定形敬語を使っていることもある。例えば、

「私」: 26階にお住まいだとおっしゃいましたね? (107-14)

このように、指導者は学習者に上記のような談話例に注目しながら、3種類の尊敬語の敬度の違いと理由を理解させるべきである。

### 3.5 学習指導計画

ここでは、上記の作品分析を生かし、学習のねらいや学習活動、指導上の留意事項などについて、学習指導計画を立てた。学習時間は4時間を使って行う予定である。

上記の学習内容は主に2, 3時間目で行う予定である。しかし、作者の紹介、作品のあらすじ、登場人物の人間関係と場面の紹介、敬語の基礎的な知識などについて、1時間目の授業で簡単に紹介しておく。また、作品で敬語を学習した後、学習者が敬語の知識理解だけで終わってしまう恐れがあるので、学習者が適切に運用できるかどうかを確認する必要がある。そのた

め、4時間目で敬語を表現できる寸劇の形式で実践的な学習を行う予定である。

## 4 研究成果と課題

多くの中上級のCLは、なかなか適切に敬語を使うことができないと指摘している。また、中国の大学における日本語教育現場(以下は教育現場と略す)で現在使われている教科書はさまざまな問題が存在している。そのため、今後教育現場においては、指導者と学習者にとってふさわしい敬語教育の教材を開発する必要がある。

そこで、本研究はまず、敬語教育の課題の解決に向けて、場面と人間関係に応じた多く敬語が使われている現代作家の村上春樹の短編小説を選び、この作品における登場人物の敬語表現を考察した。その結果、次のようなことが明らかになった。

1. 敬語使用の条件としては、上下関係より親疎関係を優先するようになる。
2. 話題人物に対する敬語表現は話し手と話題人物の人間関係によって違ってくる。
3. 若い世代の言葉使いは話題人物より聞き手を多めに配慮し、聞き手にできるだけ多く丁寧語を使う傾向がある。
4. 年上の方は「親疎関係」を配慮するだけでなく、自身の品格と円滑な人間関係を保持するために、年下の聞き手に敬語を使うことだと考えられる。
5. 話し手が自分自身の心理状態および心理変化に応じて聞き手に対する敬語の使用と不使用が交互に変る場合がある。

次に、村上春樹の短編小説を取り入れた敬語の授業の確立を目指して、作中における敬語使用の特徴についての分析結果を生かしながら、中上級レベルのCLが『どこであれそれが見つかりそうな場所で』という作品で、敬語についてどのようなことが学習できるかに注目して分析した上で、学習指導計画を立てることにした。

しかし、今後の課題も残っており、本研究は新しい敬語の教材を開発することはできるが、この学習材の学習効果を図るために、今回作った学習指導案に基づき、中国の大学における日本語教育現場で実際にこの学習材を用いて敬語の学習活動に取り込む必要がある。

#### 参考文献

- 1) 案野香子 (1999) 「中国の日本語教育における待遇表現の導入」『第四回国際日本語教育・日本研究シンポジウム予稿集』香港日本語教育研究会
- 2) 蒲谷宏・川口義一・坂本恵・清ルミ・内海美也子 (2006) 『敬語表現教育の方法』大修館書店
- 3) 岡本佐智子 「小説を主教材に使う一上級読解授業例一」(『月刊日本語』1999年5月号), pp. 24
- 4) 尾崎 学 (2006) 「台湾における尊敬語表現の指導法について人間関係に応じた尊敬語動詞の使い分け一」『日本語教育研究』No. 50, pp. 107-125
- 5) 尾崎 学 (2006) 「台湾における第三者敬語表現の指導の一試案一『新文化日本語初級4』を例にして一」『日本語教育研究』No. 50, pp. 87-100
- 6) 菊地康人 (1997) 『敬語』講談社
- 7) 呉少華 (2009) 『待遇表現の談話分析と指導法一漱石作品を資料にして』勉誠出版
- 8) 島田徳子・柴原智代 (2008) 『国際交流基金, 日本語教授法シリーズ, 第14巻「教材開発」』ひつじ書房
- 9) 柴原智代・島田徳子 (2008) 「これからの日本語学習を教材で支援するために必要なこと」『日本語教育論集』No. 24, pp. 33-47
- 10) 半田淳子 (2000) 「敬語に関する調査と恋愛小説を教材とした敬語指導の試み」『東京学芸大学紀要 第2部門, 人文科学』No. 51, pp. 95-103
- 11) 村上春樹 (2005) 『東京奇譚集』新潮社
- 12) 母 育新 (2008) 『中国人日本語学習者に対する待遇表現の指導に関する研究』中国社会科学出版社